

科目名	システム設計						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数		60時間	担当者	小渕 洋子、前園 勝稔、野馬 克則
実施年度	2023年度		実施時期		前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	テキストとオリジナル教材で講義と演習を行い、システム開発における設計過程の内容の理解と実践による基礎修得を目指す。						
	iCDタスクコード		DV05.5.1, DV05.6.1, DV05.6.2, DV05.7.1, DV05.7.2				
授業形態	講義：○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				開発に必要な主な設計書の種類を把握し説明することができる	
	○	◎				設計書から設計意図を理解することができる	
	○	◎				設計意図を設計書へ具現化することができる	
テキスト・教材 参考図書	はじめての設計をやり抜くための本 第2版(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1～2	設計の目的と開発プロジェクトの進め方					
	3～4	要件定義、外部設計					
	5～6	フロントエンド(画面設計)					
	7～8	フロントエンド(データベース設計)、フロントエンド(機能設計)					
	9～10	フロントエンド(機能設計)、内部設計					
	11～12	フロントエンド(テスト設計)、課題演習					
	13～14	確認テスト、バックエンド(画面設計)					
	15～18	バックエンド(データベース設計)					
	19～20	バックエンド(機能設計)					
	21～24	バックエンド(テスト設計)、課題演習					
	25～26	MVCアーキテクチャ、アーキテクチャを使用した設計					
	27～30	総合演習、まとめ、確認テスト					
	評価方法	(1)確認テストを2回実施する(2)課題・レポートを数回実施する(3)受講状況进行评估する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
確認テスト		○	◎		○		30%
課題・レポート		○	◎		○		50%
受講状況					◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。PC持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	データベース演習									
科目名(英)										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		小淵 洋子、前園 勝稔	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	表検索、表結合、表作成などの基本的なSQL操作をステップアップ形式で学習する。実行環境を作成し、毎回、SQL操作結果を確認しながら、目的に応じた表操作ができることを目指す。 更にデータベース設計の知識やプログラミングとの関連性も学びながら、後期のシステム開発演習へと繋げる。									
	iCDタスクコード		DV05.2.3, DV05.2.4, DV08.2.2, DV08.2.3							
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				記述されたSQL文を理解できる				
	○	◎				要求されるデータ操作や表定義のSQL文を記述できる				
	○	◎				データモデルや正規化の知識を元にデータベース設計ができる				
テキスト・教材 参考図書	SQL ゼロからはじめるデータベース操作(翔泳社)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	データベースの構成と特徴、実行環境の作成								
	2									
	3	検索の基本								
	4									
	5	算術演算子、比較演算子、論理演算子								
	6									
	7	確認テスト、データベース設計(正規化)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	8									
	9	テーブル作成 基本								
	10									
	11	テーブル作成 応用(参照制約、インデックス)								
	12									
	13	登録、削除、更新、トランザクション、ACID特性								
	14									
	15	整列、システム開発課題のテーブル作成、復習								
	16									
17	グループ化とグループ行への条件指定									
18										
19	確認テスト、グループ化とグループ行への条件指定					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
20										
21	ビュー、サブクエリ									
22										
23	関数、述語、CASE式									
24										
25	結合									
26										
27	確認テスト、総合演習(設計～テーブル作成)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
28										
29	SQL総復習									
30										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト3回実施する。 (3)授業内に課題演習を指示し、課題の完成度や提出状況を確認する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	◎				30%			
	確認テスト	○	◎				20%			
	課題演習			◎	◎		40%			
	受講状況				◎		10%			
履修上の注意	再試験は実施しない。									

科目名	プログラミング演習ⅡA						
科目名(英)							
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	川野 啓佑、西野 直幸
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	Javaの基礎構造(型・クラス・メソッド)を振り返ったうえで、アルゴリズムを自分で考え、中程度のJavaプログラムを独力で作成できる力を身につける。また、プログラムを読む力を育てプログラミング力の総合力の底上げを行う。						
	iCDタスクコード		DV05.7.1, DV05.7.2, DV05.7.3, DV05.7.4				
授業形態	講義: △		演習: ○		実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	◎				vs codeを使用してプログラムを作成することができる	
	○	◎				簡単なエラーであれば独力で解決することができる	
	○	◎				中程度のプログラムを自分でアルゴリズムを考え作成することができる	
	○	◎				ソースコードを見て何をしているかを理解することができる	
テキスト・教材 参考図書	Java入門編 ゼロから始めるプログラミング入門(翔泳社) Java実践編 アプリケーション作りの基本(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	開発環境構築/java基礎					
	2-4	ループ基礎(for while dowhile)、配列基礎					
	5	メソッド基礎					
	6	コンストラクタ基礎・カプセル化					
	7	クラス基礎1(インスタンスとインスタンスメソッド)					
	8	クラス基礎2(メソッドのインスタンス利用)					
	9-10	ミニ演習課題					課題の作成、復習を行うこと
	11-15	継承					
	16-19	パッケージ					
	20-23	多態性					
	24-31	インターフェース					
	32-35	例外処理					
	36-37	ミニ演習課題					課題の作成、復習を行うこと
	38-45	Java検定2級対策					復習を行うこと
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)確認テスト・小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	◎		○		30%
課題・レポート		◎	◎		○		40%
確認テスト・小テスト					◎		20%
受講状況					◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。PC持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	Webプログラミング演習ⅡA						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数		60時間	担当者	染矢 裕美子、村上 香代
実施年度	2023年度		実施時期		前期	担当者実務経験	ITエンジニアとして開発業務に従事
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	テキストとオリジナル教材で講義と演習を行い、PHPを活用したWebアプリケーション開発の基礎修得を目指す。達成スキル表を提示し、技術習得の見える化を行っていく。外部Webサーバで動作確認を行いながらWebアプリケーションの理解を深める。また、演習問題を実施して、知識の定着を図る。						
	iCDタスクコード		DV08.2.1, DV08.5.1, DV08.5.2, DV08.5.3, DV08.5.4				
授業形態	講義：△		演習：○		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				Webアプリケーションの仕組みを説明することができる	
	○	◎				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる	
		◎				PHPフォームを利用した入出力操作のプログラムを作成できる	
		◎				PHPでデータベースを操作することができる	
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくPHP「超」入門(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1-3	外部サーバのアカウント作成、Webサーバの仕組みについて					
	4-5	リクエスト・レスポンス、HTMLの復習					
	6-7	PHPフォーム作成、文字コード					
	8-9	乱数、基本ステートメント					
	10	フォーム操作1					
	11-12	フォーム操作2					
	13-14	外部データベースの操作1					
	15-16	外部データベースとの連携1					
	17-18	基礎課題作成					課題の作成、復習を行うこと
	19	フォーム操作3					
	20-21	フォーム操作4					
	22-23	外部データベースの操作2					
	24-25	外部データベースとの連携2					
	26-27	日付処理、正規表現					
	28-30	応用課題作成					課題の作成、復習を行うこと
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プログラミング課題を数回実施する。(3)受講状況を評価する以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		○	◎				30%
課題演習		○	◎		◎		50%
受講状況					◎		10%
確認テスト		◎	◎				10%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	Webフロントエンド演習A									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		染矢 裕美子、村上 香代、前園 勝稔	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	Web開発で必要となるHTML・CSSの基礎を習得する。基本的なページを作成するためのタグ、マルチデバイスを考慮したレイアウトの作り方を習得する。									
	iCDタスクコード		PL03.3.1, PL03.3.2							
授業形態	講義：△		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○				HTMLで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。				
		○				スタイルシートで記述された内容を一人でリファレンスを参考に理解することができる。				
		○				基本的なWebページを作成することができる。				
テキスト・教材 参考図書	これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS&Webデザイン1冊目の本[電子書籍] 翔泳社									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	開発環境準備								
	2	Part01 HTMLの基本(マークアップとは、情報を整理する)								
	3	Part01 HTMLの基本(HTMLの骨格、見出し・段落のマークアップ)								
	4	Part01 HTMLの基本(箇条書き・リンクのマークアップ)								
	5	Part01 HTMLの基本(画像・強調・表のマークアップ)								
	6	HTMLの基本を使った演習課題					課題の作成、復習を行うこと			
	7	Part02 CSSの基本(CSSの書き方、CSSとHTMLの紐づけ、デフォルトCSS)								
	8	Part02 CSSの基本(ボックスモデル、背景色、フォント、枠線)								
	9	Part02 CSSの基本(余白、中央寄せ)								
	10	Part02 CSSの基本(画像を丸く、ボタンの装飾)								
	11	HTML & CSSの基本を使った演習問題					課題の作成、復習を行うこと			
	12	Part03 Flexboxレイアウト、構造を表すタグ								
	13	Part04 CSSアニメーション、Webフォント、レスポンシブデザイン								
	14	JSON、Ajax、jQueryの紹介								
15	総復習					課題をすべて提出すること				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する(2)プログラミング課題を数回実施する(3)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○	◎				30%			
	課題演習	○	◎		◎		50%			
	受講状況				◎		20%			
履修上の注意	再試験は実施しない									

科目名	GCB II						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	西野 直幸・川野 啓祐・村上 香代・前園 勝稔・ 野馬 克則・小淵 洋子・染矢 裕美子
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ・広い視野・知識と深い洞察力 ・自己を革新する成長力 ・与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				考えることの大切さを理解することができる。	
		○				自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。	
		○				目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。	
		○				行動する大切さを理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックⅡ(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポート	
	2	なぜ志を立てることが大切なのか				振り返りレポート	
	3	自己を知る				振り返りレポート	
	4	伝える力を学ぶ(1)				振り返りレポート	
	5	伝える力を学ぶ(2)				振り返りレポート	
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる				振り返りレポート	
	7	自己の大切さと責任を自覚する				振り返りレポート	
	8	GCBⅡを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと				振り返りレポート	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)毎回の授業でレポートを指示する。 (2)授業で取り組むグループワークや発表内容、受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート		◎		○		80%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点・補習・追加課題を行う場合がある。						

科目名	ゼミナールⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	西野 直幸
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	グループワークを通じて学生同士でコミュニケーションを取る演習を行う。 特に問題解決のための質問力の向上を図る。ICT分野を広く知るため、新聞・ネット記事を調査したり、勉強会などの体験をおこない、ICT技術を理解習得した内容をまとめて発表する。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		◎	○	○		他者とのコミュニケーションが取れる	
		◎		○		自分でたてたテーマについて調査し発表することができる。	
		◎		○		スケジュールをたてて行動することができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	クラス内オリエンテーション①・・・自己紹介、年間チーム確認、4年コース目標説明					
	2	クラス内オリエンテーション②・・・グループワーク①				振り返りシートを作成すること	
	3	クラス内オリエンテーション③・・・グループワーク②				振り返りシートを作成すること	
	4	クラス内オリエンテーション④・・・グループワーク③				振り返りシートを作成すること	
	5	ICT技術調査1					
	6	ICT技術調査2					
	7	ICT技術調査3					
	8	ICT技術調査4				調査資料をまとめておくこと	
	9	調査結果中間報告1				発表練習をしておくこと	
	10	調査結果中間報告2				発表練習をしておくこと	
	11	ICT技術調査5					
	12	ICT技術調査6					
	13	ICT技術調査7				調査資料をまとめておくこと	
	14	調査結果成果発表1				発表練習をしておくこと	
	15	調査結果成果発表2				発表練習をしておくこと	
評価方法	(1)成果物の提出課題を数回実施する。(2)成果物の成果発表を実施する。(3)面接練習の取り組みや課題提出率を評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		30%
	成果発表		◎	○	○		30%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。PC持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅠ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	川原 ユウジ・徳島 欽子・逢坂美千代
実施年度	2023年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	自己のふるまいを見直し、社会人として、より良いコミュニケーション力を育む。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		きちんと声を出して挨拶ができる	
	○			○		効果的な自己PRができる	
	○			○		相手に伝わる表現や話し方ができる	
テキスト・教材 参考図書	ウイネット『コミュニケーション技法』ウイネット、2009						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	序章「コミュニケーションしてみよう」【印象交換】				コミュニケーションについて、自分なりインターネットや本で調べる	
	2	「コミュニケーションの基本」【ア行で話そう】					
	3	「コミュニケーションの基本」【絵で話そう】					
	4	「コミュニケーションの基本」【あいさつとマナー】					
	5	「コミュニケーションの基本」【あいさつの達人】				コミュニケーションの基本について復習を行なう	
	6	「きれいな発声・発音を身につけよう」【話し方チェック】					
	7	「正しい日本語を身につけよう」【日本語を考える】					
	8	「正しい日本語を身につけよう」【正しい言葉遣い】					
	9	「正しい日本語を身につけよう」【敬語をマスター】				プレゼンテーション内容を事前に考える	
	10	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション①】					
	11	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション②】					
	12	「効果的な話し方を身につけよう」【5W2Hで話す】					
	13	「効果的な話し方を身につけよう」【AIDMAの法則】					
	14	「効果的な表現力を身につけよう」【態度と目線】					
	15	「効果的な表現力を身につけよう」【ゼスチャー】					
評価方法	(1)課題・レポートを実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○			○		55%
	小テスト	○					25%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	プログラミング基礎演習A									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		西野 直幸	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	1年生で実施したプログラミング演習を振り返り、再度Javaプログラミングの基礎を学ぶ。 Java言語の基本文法を学び、基礎的なプログラムの作成できるようになることを目標とする。									
	iCDタスクコード		DV05.7.1, DV05.7.2, DV05.7.3, DV05.7.4							
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○	◎				Javaの基本的な用語を説明することができる				
	○	◎				基本構文による処理を作成することができる				
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	Java環境構築、用語および変数の復習								
	2									
	3	基本構文の復習(条件分岐)								
	4									
	5	基本構文の復習(ループ)								
	6									
	7	基本構文の復習(配列)								
	8									
	9	メソッド、オーバーロード、クラス、インスタンス								
	10									
	11									
	12	コンストラクタ、クラス変数、インスタンス変数、クラスメソッド								
	13									
	14									
15	総合演習									
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)課題またはレポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		○	◎				50%		
	課題・レポート		○	◎		○		30%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意	PC持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。									

科目名	セキュリティ基礎									
科目名(英)										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		北島 仁宇	
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年									
授業概要	情報セキュリティにおける各分野の基礎レベルの知識を習得する。セキュリティに関する問題点と対処方法を説明することができ、ITベンダーやシステムインテグレーターなどの担当者と専門分野の会話が問題なくできるスキルを身に付ける。									
	iCDタスクコード		EX01.37.3、EX01.37.3、EX01.38.2							
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○					セキュリティの専門用語について学び、意味を説明することができる。				
		○				不正アクセスの具体例とそれらを防ぐための仕組みや技術について説明することができる。				
		○				暗号技術の理論を学び、その仕組みを説明することができる。				
		○				セキュリティ上の脅威における問題点と対処法について説明することができる。				
テキスト・教材 参考図書	この一冊で全部わかる セキュリティの基本(SBクリエイティブ)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-2	セキュリティの基本(1)								
	3-4	セキュリティの基本(2)								
	5-6	セキュリティの確保に必要な基礎知識(1)								
	7-8	セキュリティの確保に必要な基礎知識(2)					1から2章までの用語の意味を確認しておく			
	9-10	攻撃を検知・解析するための仕組み(1)								
	11-12	攻撃を検知・解析するための仕組み(2)					3章までの用語の意味を確認しておく			
	13-14	セキュリティを脅かす存在と攻撃の手口(1)								
	15-16	セキュリティを脅かす存在と攻撃の手口(2)					4章の用語の意味を確認しておく			
	17-18	セキュリティを確保する技術(1)								
	19-20	セキュリティを確保する技術(2)					5章の用語の意味を確認しておく			
	21-22	ネットワークセキュリティ(1)								
	23-24	ネットワークセキュリティ(2)					6章の用語の意味を確認しておく			
	25-26	セキュリティ関連の法律・規約・取り組み(1)								
	27-28	セキュリティ関連の法律・規約・取り組み(2)					7章の用語の意味を確認しておく			
	29-30	総復習								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○						50%		
	課題・レポート	○		◎		○		30%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意										

科目名	情報処理試験春対策											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		川野 啓祐			
実施年度	2023年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年											
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1～8	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
	7-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 (2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								55%
	課題・レポート	○		◎								25%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意												
	再試験は実施しない											